

目黒寄生虫館月報

昭和35年7月10日発行・毎月1回10日発行

第 17 号

昭和 35 年 7 月

目黒寄生虫館発行

東京目黒区目黒三丁目一丁目一番地
電話 目黒三丁目一丁目一番地

インドより多数の標本を

理学博士福井玉夫氏の紹介で Dr. R. S. Tandon 教授 (Lucknow University, India) から下記の標本が寄贈された。

- Fasciola indica (寄主 Bos bubalus)
- Miracidia of Fasciola indica
- Lissemysia ovata (Bivalves)
- Olveria indica (Cattle & buffalo)
- Mehrorchis romarum (Rana tigrina)
- Fischoederius cobboldi (Bos bubalus)
- Carmyerius Spatiosus (Cattle & buffalo)
- Olveria bosi (Bos bubalus)
- Glossiphonia (Limnaea acuminata)
- Monocystis (Seminal vesicles of Pheretima)
- Trematoda from liver of toad Bufo
- Taenia taeniaefomis
- Dipylidium caninum

久留米医大岡部浩洋博士来館

6月21日久留米医大教授岡部浩洋博士は、学会の途中来館された。

山本丈夫博士来館

6月9日神戸市衛生研究所薬学博士山本丈夫氏は公衆衛生院山田美恵子女史と共に来館された。

清瀬看護婦学院生徒一行来館

6月16日、国立病院附属清瀬看護婦学院の生徒33名が、先生2人と来館されて館長から直接説明をうけた。

公衆衛生院団体見学

6月17日、公衆衛生院西博士他団体23名の来館があった。獣医関係の標本を特に興味をもって見学された。

標本及び文献の寄贈

- 石野 英氏……多房性包虫の発育像に関する考察他 1 篇
- 湯田和郎氏……宮城県産モクスガニの肺吸虫メタセルカリア寄生状況

帆足延夫氏……海員 6 月号

吉田幸雄氏……大平肺吸虫の新第一中間宿主ヨシダカワザンショウに関する研究他 2 篇

黒田徳米氏……カワザンショウガイ新種今一種

武田薬品KK……『実験治療』バックナンバー

中川 宏氏……「日本フィリアザラシに寄生するシラミ」他 6 篇

吉田義男氏 (獣医師) より爪実条虫 (犬) を多数。

NYK 三笠丸 森山桂氏より Pakistan, Calcutta, Rangoon, Hongkong のハエ多数。

Dr. R.S. Tandon (India) より 16 点

笠川ウメ氏より東怒川の淡水魚, マルタニシ, アメリカザリガニ, シジミ多数

吉田幸雄氏……ヨシダカワザンショウ

NYK 秋田丸近藤政一氏より Singapol のハエ多数

稲田直道氏よりニゴイ他淡水魚多数

内田至氏より鯨の脾臓標本一点

中川志郎氏 (上野動物園) チンパンジーの Anoplocephala sp., サバルルキヤットの Dipylidium sp., ブタオザルの Trichuris sp.

短 信

6月1日, 千葉大長島博士, 伊藤博士来館。

6月19日, 「週刊朝日」に「寄生虫を退治しよう」という啓蒙記事が, 当館と寄生虫予防協会の協同呈供で掲載された。

6月11日, 聖路加短大女子学生数名は, 教材の整備のために来館。

6月14日, 目黒学園幼稚園々児30名来館。

6月20日, 同 29名来館。

6月23日, 江の島水族館内田至氏来館。

6月30日, 上野動物園に出張。

特別展示パラサイト

『日本における風土病寄生虫症の分布』四月より日本住血吸虫, 肺吸虫, 肝吸虫, エキノコックス, フィラリア, 顎口虫の六種についてその分布を電灯の点滅により, 一見して判るよう展示した。

野生鳥獣類の寄生虫

本館で解剖に附した鳥獣魚類の数は 2000 体をこえているが、その一部の成績は既に学会で発表をしてきた。昭和 30 年末から 31 年春までに行った 49 例については第 26 回日本寄生虫学会（昭和 32 年）で報告した。これはその時の報告の再録である。

被 検 動 物 名	実 験 数 動物数	寄 生 虫 を 所 有 せ る 動 物 数	寄 生 虫 名	寄生部位	
ヤマセミ					
オオコノハズク	Ceryle lugubris lugubris	2	1	Haploparaxis sp.	小腸
	Otus bakkamoena Semitorques	3	1	Centrorhynchus elongatus Yamaguti, 1935	"
			1	Paracladotaenia sp.	"
			1	太い線虫	
トラフズク	Asio otus otus	1	0	(-)	
コミミズク	Asio flammeus flammeus	2	0	(-)	
フクロウ	Strix oralensis hondoensis	2	2	Centrorhynchus elong.	小腸
ハヤブサ	Falco peregrinus leucogenys	1	0	(-)	
チョウゲンボウ	Cerchneis tinnunculus inter- stinctus	2	0	(-)	
ノスリ	Buteo buteo burmanicus	1	0	(-)	
オオタカ	Ast gentilis fujiyamae	1	0	(-)	
コサギ	Egretta garzetta garzetta	3	0	(-)	
ゴイサギ	Nycticorax nycticorax nycti- corax	2	2	Centrorhynchus elong.	小腸
			1	Centrorhynchus sp.	"
			1	Porrosecum reticulatum (Von Linstw, 1899)	胃, 小腸
ウミアイサ	Mergus serrator	1	0	(-)	
ウミウ	Phalacrocorax capillatus	1	1	Contraeaecum spiculigerum (Rud., 1809) Railliet et Henry, 1912	食道, 胃
			1	Trichuris sp.	
キジバト	Streptopelia orientalis	4	4	Raillietina sp.	小腸
			1	線虫	
キジバト	Streptopelia orientalis	1	0	(-)	
セグロカモメ	Larus argentatus vegae	1	1	条虫	小腸
カモメ	Larus canus kamtschatsch- ensis	1	1	Tetrabothrius lari Yamaguti, 1935	"
コジュケイ	Bambusicola thoracica	13	2	Heterakis gallinae (Gmelin, 1790)	小腸
ムササビ	Petaunsta leucogenys nikkonis	4	3	Spirura sp.	"
			1	条虫	"
			3	Syphacia sp.	大腸
			1	Trichuris sp.	虫垂内
			1	Pseudolitomosa musasabi Yamaguti, 1941	腹部皮下
キツネ	Vulpes vulpes iaponica	1	1	Toxocara cati (Schrank, 1788 Brumpt. 1927)	小腸
			1	条虫	
ドブネズミ	Rattus norvegicus norvegicus	2	0	(-)	

関東地方を中心とした野生鳥獣類の寄生虫検査（第1報）より 亀谷了, 野々部春登, 鈴木俊邦

ニューオルリンズ通信⑩ 大島智夫

当地はある意味で米国の寄生虫学の中心地でありますので、居ながらにして全米の寄生虫学の消息を知り得る便があります。訪問者による特別のレクチャーも毎月のようにあります。その中で印象に残りましたのは N.I.H. の Von Brand 博士の二回にわたる寄生動物の酸素要求についての講演とカナダマクギル大学の Faibrain 博士による「縮小条虫の物質代謝」の講演でありました。前者は講演者の長年の無脊椎動物の比較生理学の深く広い経験の上になつた極めて含蓄に富んだもので無酸素状態で生活する深海生物の生理からときおこしチクロームオキシダーゼをもたぬ回虫の不完全酸化にいたる進化論的系統発生的な考察ですがは大家の貫録を示したものでした。後者は縮小条虫の成長過程による虫体構成物質の変化、排泄物質の生化学的検討を主としたものです。チュレーン大学の隣り(チャリティーホスピタルをはさんで)にルイジアナ州立大学医学部があり、その薬理学の教授 Dr. Beuding は寄生虫の生化学の第一人者であります。

この三名の学者によって代表される寄生虫学の新しい分野、つまり生化学を武器として物質代謝その他の点から寄生現象の解明につとめる方向については多くの期待と又同時に批判がよせられています。

小生の観察する限り、ビーバー教授によって代表されるチュレーンの寄生虫学はこの方向をまともにとりあげる傾向は今の所あまりありません。その理由の一つは一見時代の尖端をゆくように見えていても、その成果はその多大の労力にもかかわらず、寄生現象の説明に寄与するところ比較的少いからではないかと思えます。問題は結果の Interpretation でありますから条虫の構成物質がかくかくであるという結果がでて結果がでたという事だけに終る危険性があるのではないのでしょうか。

しかしこれは現状における批判であって将来一つの決定的な有力な方法になることは明らかであります。ただ広い深い寄生虫学一般の基礎知識なしにいきなり回虫の物質代謝にとりくむというやりかたは waste of time に終る危険は非常に多いと思えます。

ニューオルリンズ通信⑪ 大島智夫

今日は当教室の P.H.D. の学生達が如何に勉強しているかを御伝えします。

このごろ少し仕事がつまってきたので夕食後も研究室に 8—9 時ごろまで残っている事が多くなりました。私の日本での経験では夜の研究室は静かで淋しいくらいの感じでしたが、ここでは昼間以上ににぎやかです。彼等は 5 時ごろ夕食に家に一度帰り 7 時過ぎに又戻ってきます。そうして 10 時 11 時ごろまで仕事をしています。ビーバー教授は 7 時ごろ帰宅されますので気分的に解放的になり夜の研究室がこんなににぎやかで楽しいものだとはおもいませんでした。朝 8 時に出てきて見ると昨夜あった連中は皆もう顔を出しています。学問の成果はある点からそれに投じた時間に比例するとも考えられますから、3 年 4 年とこうして勉強しているうちに 5 時でピタリと帰り土・日曜を休む人達と格段の実力の差が出てくるのは当然でしょう。東洋人・中近東の人間は概して怠惰でデグリーさえとれば良いというようなものが多いようです。その点からは後進国がいつまでも後進国でとどまっている大きな理由があるようです。民族主義だけが進展し勤勉に働き、学ぶ事がなござりにされているのは彼等の大きな不幸でしょう。ビーバー教授は図書室に置いてある新着の雑誌に目を通していないと「君は怠け者だ」といわんばかりの不機嫌な顔をされます。

煌々と燈りのついた夜の研究室になじんでくるとやはりチュレーンの寄生虫学教室の伝統と実力はこういうあたりからきづかれてきたようにおもいます。今夜は隣室で Heterobilharzia の中間宿主を発見した学生から詳しくその話を聞きました。又お便りいたします。

生物学同好会

6 月の講義は講師杉靖三郎博士の都合により延期。

御 願 い

当館の内容を充実するために寄生虫に関する資料、標本、文献の御寄贈を御願いたします。